Seishin US 224



おもな記事

令和2年度 第71回 卒業式式辞

ご退職の先生

新卒業生へのメッセージ

新卒業生の声

グローバル教育環境整備基金について ご寄付・ご支援のお礼とお願い

Topics

聖心グローバルプラザ(4号館) BE*hive での新展示

など



聖心女子大学

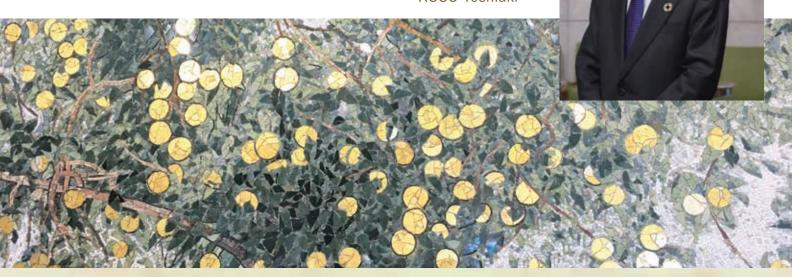
University of the Sacred Heart, Tokyo

令和2年度

第71回 卒業式式辞

「黄金の林檎」のメッセージを生きる

聖心女子大学 学長 髙祖 敏明 KOSO Toshiaki



ご卒業の皆様、おめでとうございます。保護者の皆様にもお慶びを申しあげますとともに、これまで賜りましたご支援とご協力に心より御礼を申しあげます。

COVID-19感染拡大の予防措置として、式場参加も各学科代表と聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞受賞者に限るなど、規模を縮小したため一人ひとりに卒業証書をお渡しできず、心が痛むのですが、ご理解のほどお願いします。

4号館/聖心グローバルプラザの開設は皆さんが入学した2017年4月。玄関正面の『黄金の林檎 Le Pommier d'Or』は、田窪恭治先生が開設記念に「共生」すなわち「生物多様性や持続可能な社会」をテーマに制作されたモザイク壁画作品です。岡崎淑子前学長は、共生というテーマは「世界の一員として連帯感、使命感を持ち、様々な違いを超えて人々と共に生きる人間を育成」するという本学の教育理念に基づくものと説明しておられます。そればかりか、共生は SDGs を貫くテーマですし、10年前の東日本大震災以来、強調されている生き方でもあります。

現に「黄金の林檎」は、中国、ギリシア、イタリア、ジンバブエなど、世界各地の様々な自然石が嵌め込まれ、それぞれがなくてはならない一員として一本の林檎の木を構成しています。幹に繋がる数多くの枝には、様々な形と色合いの石で表現された200余の黄金の林檎がたわ

わに実を付けています。

「この林檎に種はありますか」との質問に田窪先生は、「ありません。種を作っていただけるのは、多分、今後この作品を見て、何か一つでも感受性を共有する人が出て来た時、そこで初めて種ができ…どこかで実がなっていくのでは」と語っておられます。この先生の期待は、私たちの期待でもあります。皆さんが社会にあってSDGsの17の目標を意識しながら、地球環境の保全と人類共生の種となり、実りも付けて世界の一員として共生を生きることです。本学も昨年5月、「気候非常事態宣言」を発出して、地球環境を守りカーボンニュートラルの社会づくりの一端を担う決意を表明しました。

2023年は本学の創立75周年です。これを祝うコンセプトは、例えばエコキャンパスですが、具体的企画やロゴマークは募集中です。皆さんからのアイデアも大歓迎です。どうぞ卒業後も本学の発展を支えてください。

結びに、聖書の言葉を贈ります。

「イエスは近寄ってきて言われた。『わたしは世の終わりまで、いつもあなた方と共にいる』」(マタイ28章20節)。

皆さんのこれからの歩みを、いつも共にいてくださる神様が祝福し、導いてくださいますようお祈りしております。

第224号 (2)

ご退職の先生

これまでのご尽力に敬意を表するとともに、心から感謝いたします。 ありがとうございました。





前任校で数年勤めた後、縁あって、聖心女子大学の教養課程(当時)に着任したのが、1990年の春でした。万事につけ熱しやすく冷めやすい性格で、この職にこれほど長くとどまるとは思っていませんでした。ただ、伸びしろのある聡明な学生たち、樹々の緑綾なすキャンパス、どこか泰然としてクラシックな校風に惹かれ、いつのまにか最古参のひとりに。

初めのうちは、ずいぶん呑気に時がすぎていきました。やがて1993年、全学的な改組や大学院の整備が始まると、わたしの身辺も慌ただしくなり、哲学科へと移籍します。新天地は「個性的」では表現しきれないツワモノぞろい。互いに、つかず離れず、どこまでも、自由――。いまなお哲学科に伝えられる「美風」です。哲学演習では、シモーヌ・ヴェイユやトーヴェ・ヤンソンの研究・翻訳の一部を学生に示し、率直な反応や感想に大いに助けられました。

哲学の大学院の創設、とくに英文・日文との三領域が力を合わせた人文学専攻の創設は、第6代学長のシスター山縣の悲願でもありました。「人数の多い少ないではない、イチとゼロではまったく違います」。「1960年代初め、哲学科の学生はわたしひとりでした」とも。究極の少人数教育ですね、と申しあげると、「哲学科に学生がどっと押し寄せなくてもいい。むしろ一定数の希望者が途絶えないことこそ奇蹟なのでは?」と返されて、深く納得したのでした。

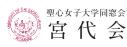
近年、大学教育・研究の環境は大きく変わりつつあります。 それでも哲学研究室の周辺では、あの美風がいまだしずかに 息づいています。その息吹に養われ、本学に関わるすべての皆さ んに助けられ、教育と研究に携わる者として、聖心女子大学 での30年を曲がりなりにも全うできたことに感謝いたします。 心理学科 佐々木 正弘 教授 SASAKI Masahiro



大学院時代の先輩である鈴木乙史先生が人間関係学科におられたので、30歳頃から頻繁に聖心には遊びに来ていました。当時は、キャンパスの落ち着いた美しさに魅力を覚えていました。やがて非常勤講師として授業を担当させていただくようになり、学生の皆さんが良識をしっかりもっていること、努力家であること、素直な好奇心で授業の内容に関心をもってくれることを知り、聖心の魅力がさらに大きくなりました。しかし、魅力を覚えたからといって専任教員になれるわけでもなく、時が経過し50代になってようやく、心理学科から来ませんかと声をかけていただくことができました。

心理学科では、臨床心理学の教員として、実践してきた クライエント中心療法について心理臨床家を目指している 方々に伝えることができ、また、それまで研究してきた別 れの心理学についても学生も含む多くの方々から示唆を受 けながら理解を深めることができました。学生の皆さんに ついて、ある方の「うちの学生は社会的知能がとても高い のです」という言葉を聞いた時、私も同じことを感じてい ると思いました。また、専任教員となってからわかったの ですが、職員の方々が、教員が研究や教育の活動が十分で きるように上手に支えてくださっていると感じました。

教員として十数年間でしたが楽しく働くことができたの は、先生方、職員の皆さん、学生の皆さんのおかげだと感 謝しております。また、退職後の人生を、聖心の教員であ ったことを誇りに思って歩んでいこうと思っております。



日本国内の6つの聖心姉妹校の7同窓会と共に日本聖心同窓会(JASH)を形成し、世界に広がる35ヶ国の聖心姉妹校の同窓会と共に世界聖心同窓会(AMASC)として結ばれています。

宮代会だより

新卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。1951年に発足した宮代会は、3月創立 70周年と共に皆さまを第71回生としてお迎えいたします。

宮代会は、終身会費を納入してご入会いただいた聖心女子大学同窓会です。現在約2万9千人の会員を抱え、国内の姉妹校、8同窓会と共に日本聖心同窓会(JASH)のメンバーです。 国内には13支部、海外にも5支部あり、世界聖心同窓会(AMASC)の一員として海外にも繋がっています。

宮代会は「会員の親睦」「母校への協力」「社会貢献」を三つの柱として、宮代会館を拠点として活動しております。

会館は、各OG会を通じて世代を超えた親睦の場としてご利用いただいております。 母校への協力としては在学生対象のいくつもの奨学金を給付、聖心女子大学グローバル環

社会貢献としては、会員から寄せられた古着や古切手の整理運用、点訳、拡大写本・製本、 縫製などの奉仕活動を行っています。

境整備募金、USH基金をはじめ必要に応じて寄付させていただいております。

これらの活動報告やお知らせ、会については、WEBサイトと毎年1月発行の同窓会誌「宮代」、4月発行の「宮代会ニュース」の紙面に記載しておりますのでご覧ください。

コロナ禍におきましても、会員の安全を大切に活動を続けてまいりました。 皆様のご参加をお待ち申し上げております。



https://miyashiro-kai.com/

新卒業生へのメッセージ

菅原 健介 副学長(評価・広報担当) SUGAWARA Kensuke



オンラインで学生たちにインタビュー

今年も卒業の季節を迎えた。4年生になった昨年の春、大学生活最後の1年を充実させようと、様々な計画を立てていた彼女たちにとって2020年は厳しい日々になってしまった。新年度が始まる4月には非常事態宣言が出される事態となった。大学の授業開始時期が遅れ、すべてがオンライン授業に切り替えられた。当初、ゴールデンウイーク明け頃には通常の授業に戻れるだろうから、それまでの我慢という楽観的な見方をする人も多かった。この混乱が1年間も続くことなど誰も想像していなかっただろう。

それでも、今年の卒業生は論文の執筆や就職活動などに取り組んだ。取り組まざるを得なかったと言った方がいいかもしれない。苦労も多かったはずだが、その成果が今回の新たな一歩につながった。安定した大学時代を過ごした私たちとしては、この世代が、卒業という難しいタイミングで、忍耐力と適応力を発揮したことにまずは敬服したい。

毎年、本広報誌ではこのタイミングに卒業特集を組んでいる。「新卒業生に聞く」というコーナーでは卒業生たちにインタビューし、その声を紹介してきた。しかし、今年はキャンパス内に学生はほとんどいない。代わりに、オンラインを使い、何名かの学生たちの話を聞いてみた。学生生活を通し、多様な価値観に触れ、自身を見つめなおし、友情をはぐくみ、次のステップに向けて大きく成長していった様子を改めて感じ取ることができた。



安達 まみ 副学長(学生担当) ADACHI Mami

ご卒業おめでとうございます。いま、みなさんは、春の日ざしを浴びながら、どのような思いで学び舎から旅立つのでしょうか。友人や仲間と語りあい絆を育んだこと。自分の追求したい主題を見いだし卒業論文にとりくんだこと。最後の一年は、思いもよらぬ事態に戸惑い悩んだこと。これまで経験し培ったすべてが、たしかにみなさんの力となっているはずです。望心の愛の灯を掲げて、未来へと歩みを進めてください。応援しています。



植田 誠治 副学長(学務・大学院担当) UEDA Seiji

ご卒業、誠におめでとうございます。学生生活最後の1年は、コロナ禍によって予定変更を余儀なくされ、悔しい思いをされた方もいることでしょう。一方、このような状況ゆえ、普段当たり前で気づかなかった大切なものにあらためて気づいたり、これまでなくてはならないと思っていたものが、意外になくてもできてしまったりという経験をされた方もいることでしょう。聖心女子大学で学んだことに誇りを持ち、ただし決しておごることなく、何が真に必要で、何を本来は優先すべきかの見極めと実行をと願います。この貴重な経験を糧として。



伊豆藏 好美 図書館長 IZUKURA Yoshimi

皆さん、ご卒業おめでとうございます。聖心での日々は皆さんにどのような力をもたらしたでしょうか。 最後は難しい一年となりましたが、その中で学ばれたことも決してと起います。すでに起れたないます。古いはありませんが、過去の経験にどのような意味を与えられるかはこれからの皆さん次第です。すずにといるというです。なが、これからの皆さん次第です。すが、またないとしましょう。

第224号 (4)

▶ 🕻 🛪 新卒業生の声 🛠 🔭 🧸

2020年を 振り返って

自分と向き合った1年

授業や指導がコロナのためオンラインに切り替わり、卒論の調査や分析が大変だったり友達に会えなくて寂しかったが、その分自分の時間が増え集中して取り組むことが出来た。就活も長引き採用活動が中止になりと、内定を貰うまでは不安だったが、自分の将来と向き合う時間ができ面接の準備をしたりと今思うと有意義な時間を過ごせた。

何気ない日常の大切さに気づかされた

勉学や就活、家族・友人との時間など様々な場面において影響が出てしまい、正直精神的に苦しい1年だった。でもだからこそ、今までの当たり前がどれだけ恵まれていたか、そして人との繋がりと温かさの大切さに気づかされた。社会人になる一歩手前の時期にこのような大切な気づきを得られたことは良かったと前向きに考えている。これからも今回のように予想できぬ事態に陥る事があるかもしれないが、今回の気づきを胸に、日々頑張っていきたいと思う。

感謝!

今までの生活の大切さを痛感した。 コロナ禍の状況で就活も大変で、 その時にすぐ相談できる友達や帰省 することができなかった時に届いた 実家、祖父母からの仕送りがありが たく、常に感謝の気持ちを持って行 動できた年だった。自粛生活がなかったら気づかなかった。



課外活動での思い出

M.S.S.S.(ボランティアサークル) の3 年半の活動が思い出に残っている。このサークルに入ったからこそ色々な学年との関わりがあったし、地元商店街の『大鮪まつり』・打ち水大作戦などのイベントに参加し、大学生にしか体験できない思い出作りができた。

るようにも感じます。

寮での日々は 一生の思い出

1年生の時は旧寮で、二人部屋だったのでルームメイトとの共同生活を経験した。2年生からは1人部屋になったが、寮でできた多くの友人との共同生活は一生の思い出になった。寮生活で共同生活の楽しさ、難しさ、そして初めて親元を離れて暮らすことの経験が、沢山のことを学ぶことにつながった。

試練をチャンスに!

就活や卒論などとても不安で、辛いこともあると思いますが、全ての経験が知識となり自分を成長させてくれるので、今できることを探して、後悔のないよう頑張ってください!辛くなったら、人を頼ってください!

大学生活の思い出

充実した学生生活

チームでマーケティングコンテストに出場し、 全国2位の成績を収めることができたこと。 学生生活を充実させることができた。

協力することの大切さ

3年次の社会調査実習。初めての調査、分析で大変だったけれど、分析以外にも皆と協力することの大切さなど色々学べて良い経験になった。今でもグループの友達と仲良しです!

YEARBOOK 2021

YEARBOOKは1951年の第一回卒業 生のために編纂されてから約70年、毎 年卒業生に手渡されてきました。

今年度はコロナ禍という未曽有の事態のなかでの制作となった年鑑編集委員会部長に話を聞きました。





オンラインミーティングの様子

2021 YEARBOOK 発行によせて

年鑑編集委員会 部長 西川 暖乃 NISHIKAWA Nonno

年鑑編集委員会は、例年5月から10月にかけて学内で写真の撮影を行い、3月の卒業式にYEARBOOK (卒業アルバム)を発行してまいりました。しかし今年、5月の緊急事態宣言以降キャンパスへの入構が出来なくなり、宣言解除後も対面での授業や課外活動の実施に制限がある状態が続き、伝統あるYEARBOOK の歴史を今年度で途切れさせてしまうのではないかと不安とプレッシャーでいっぱいになりました。しかし、逆にこんなときだからこそYEARBOOK の内容を根本から見直し、オンラインで部員たちと意見やアイデアを出し合い、これまでとは違う新しいYEARBOOK を作れたのではないかと思っております。ただ、オンラインでのミーティングは、モチベーションを保ち続けることが難しく、発言の熱量も伝わりにくいため、後輩にきちんと引き継ぐことができたのかどうか、課題も残されてい

また、今年度は当初、希望者のみへの配布を考えておりましたが、最終的には制作の単価を下げ、新 卒業生全員へお渡しすることができたことも喜ばしく思っております。

制作にあたって一番心がけたことは、聖心女子大学に通ってよかったと感じてもらえる内容にすることでした。特に最終年度にはコロナ禍で当たり前の日常が失われ、これまで通りの大学生活がおくれず、友人と会うことも、人によっては家族と会うことすらできない現実がありました。こうした中で、何を感じ、何を考えていたのか、それを言葉にして残しておくことに意味があるのではないかと思い、従来のアルバム型をやめ、「卒業にあたっての想い」を新卒業生の皆様からよせていただくことにいたしました。これからの歩みのなかでふと立ち止まったとき、YEARBOOKのなかのご自身のことばと向き合い、何かを感じていただくことができるのではないか、また社会的な意味での記録としても役に立つのではないかと感じています。

最後になりますが、今回の制作にあたって、お力添えをいただいた先生方、職員の皆様に心より御礼 申し上げます。



グローバル教育環境整備募 寄付・ご支援のお礼とお願い

皆様の温かいお力添えは、様々な形となり実を結んでまいりました。 ご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。 残る1年、どうか一層のご支援をお願い申し上げます。

学生たちの社会連携活動の拠点に

旧JICA広尾センター跡地に立地する聖心グローバルプラザは2017年 の開館以降、聖心女子大学グローバル共生研究所の企画・運営のもと 多様な活動を展開し、大学と地域・社会をつなぐ拠点となっています。 展示とワークショップを行うBE*hiveでは、「難民・避難民」次いで「気 候変動」といった地球規模の課題をテーマとし、関連する学会や NGO/NPO、国連機関、政府系機関などと連携した多数のシンポジウ ムやイベントの実施を通して社会に発信を続けています。

また、社会人・学生を対象とする「グローバル共生セミナー」では、 SDGs や ESD を実践的に学ぶことができます。







·般の方もご利用いただけます。



して2002年に発足した本学の課外活動団体です。

カトリック教会のマリアの年にちなんで名づけられた マリアン・ホールは大学の象徴的な建物です。

改修された2階の大講堂は、入学式や卒業式など の式典のほか、震災復興支援イベントや宮代会(同 窓会) 主催のコンサート等が行われ、卒業生と在学 生を結ぶ大切な場所になっています。





卒業式にて

2019年1月竣工、フルオープンしたシェアハウス 式の新学寮では、学年や学科を超えた学生間の交流 が盛んです。また季節ごとのイベントや留学生を囲 んでの懇親会など、新しい取り組みが学生主体です すめられています。





リビングで談笑する学寮生

留学生と七夕パーティにて

山澤 寛子

株式会社

リコージャパン

引き続きのご支援をお願い申し上げます。(同封の振込用紙をご利用ください) インターネットからのご寄付はこちらから -----https://www.u-sacred-heart.ac.jp/contribution/global/

グローバル教育環境整備募 金につきまして、ご寄付をい ただいた方々のご芳名を掲載 し、深く感謝申し上げます。 なお、ご芳名は掲載に同意 いただいた方のみとなります。

■500,000円 園田 八重子

■30,000円 鈴木 雅博 園田 明子 栗田 依幸

■200,000円 味岡 徹

小林 悦子

佐々木 亮

■ 数 で ご 寄付の状況

総額:273,061,582 円 (2021年1月31日現在)

■ご芳名のみ 関 昭裕

石渡 覚子 髙橋 聡 茅 邦子 手納 美枝 髙祖 敏明

道正 伸久 原田 耕

■匿名 20件

小林 千浩 富士工業株式会社

寄付者ご芳名(2020年11月~2021年1月)敬称略

(6)第224号

令和2年度聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念 学長賞と聖心女子大学学長賞の受賞者および団体について

聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞は、建学の精神をよく体 現し、模範となる学生生活を送ったと認められる卒業見込みの学部学生を褒賞す るもので、表彰式は卒業式で執り行われました。

聖心女子大学学長賞の授賞式は、受賞対象者が4年次生を含む「学生会役員 会」と「学生有志5名」については、2020年12月23日(水)に行われ、日本語日本 文学科のヨウガチさんと聖歌隊の表彰式が4月3日(土)入学式に引き続いて行 われる予定です。

- 英語英文学科 (現英語文化コミュニケ
- 英語英文学科 (現英語文化コミュニケーション学科)
- 日本語日本文学科
- 教育学科 初等教育学専攻

相澤 彩子 AIZAWA Ayako 白石 あり SHIRAISHI Ari 吉田 直子 YOSHID Naoko 武貞 充未 TAKESADA Mimi



聖心会創立者 聖マグダレナ・ソ (1779-1865)

- 学生会役員会
- 学生有志5名(※学内の感染防止対策動画作成)
- 日本語日本文学科 YANG YAZHI (ヨウガチ)
- 聖歌隊



学生有志5名 12月23日(水)聖心女子大学学長賞授賞式にて



学生会役員会 同左

※受賞者のことばは、公式 WEB サイト内「大学広報誌」ページ上でご紹介いたします。

教学支援システム Sophie 新デザインが決定

在学生の誰もが、授業の受講、履修登録、学生生活上の必要事 項などで毎日必ず見る「教学支援システム Sophie」。システムを 起動すると表示されるログイン画面を飾るデザインは、学生への 公募により選ばれます。3度目となる公募には、多くの応募があ り、いずれ劣らぬ力作揃いの作品の中から入念な検討を経て決定 いたしました。受賞者は以下の通りです。



最優秀賞 英語英文学科 4年 宮川 栞奈 (現英語文化コミュニケーション学科)

MIYAKAWA Nana

優秀賞日本語日本文学科4年

吉田 直子 YOSHIDA Naoko

優秀賞哲学科4年

中野 みゆき NAKANO Miyuki

12月21日(月)に宮代ホールにて行われた表彰式

文部科学省ホームページにて 本学の学生支援活動が 工夫例の一つとして紹介



文部科学省ホームページにおいて、「大学等における後期等の 授業の実施状況に関する調査」での本学の報告内容が掲載されま した。またそれに基づき、「コロナ禍の中で学生の理解・納得を 得るための大学の工夫例」として、本学の取り組みが紹介されま

本学の「ひとりも取り残さない」学生に寄り添う対応が評価さ れています。



冊子としての聖心キャンパスは、今号が最終とな ります。今後は公式 WEB サイト内「大学広報誌」 ページでご覧いただけます。

https://www.u-sacred-heart.ac.jp/about /publication/



キャリア支援

就職対策セミナー

5 大学合同の就活対策講座

「オンライングループディスカッション体験会」開催

本講座は、採用活動においてオンラインのグループディスカ ッションを導入する企業が増えていることから、オンライン就 活支援の一環として企画されたものです。

当日は聖心生を含め5大学50名の学生が参加。他大学の学生 とオンライン会議システム「Zoom」を使用してのグループデ ィスカッションを体験し、グループディスカッションの流れや その中での役割、円滑なディスカッションのためのポイント等 を学びました。企業の採用担当者も8名参加され、他大学の学 生とディスカッションする経験だけでなく、企業側の視点を理 解する貴重な機会にもなりました。グループディスカッション 後のプレゼン発表では、我先に発表しようと手が挙がり、本番 さながらの熱気でした。



オンラインで発表資料を作成

キャリア支援の3本柱

キャリアカウンセリング

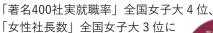
- ・キャリアカウンセラー15名在籍
- ・1回30分程度のカウンセリングを回数制限なく 1年次生から受けることができる
- ·Google Meet を利用したオンラインカウンセリング

就職対策セミナー

- ・リアルタイム・オンライン配信による開催
- ・動画配信によるセミナー開催

コミュニケーション

- ・専任職員が常駐
- ・メール・電話・オンライン面談で相談対応
- ・進路支援システム「Torch」の活用



リベラル・アーツ教育を中心に総 合的な人間力を養う少人数教育の徹 底や、1年次生から手厚いキャリア 支援を受けられるサポート体制など の本学の強みが、コロナ禍において も改めて高く評価されています。



大学通信 『大学探しランキング2021』 より

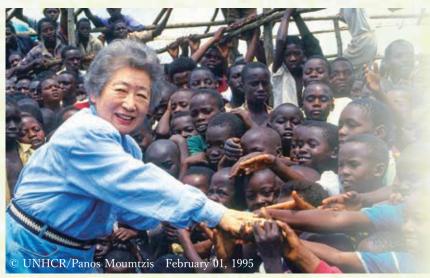


2020年7月31日「全国『女性 社長」分析調査(2020年)より

(7)第224号

「緒方貞子さんと聖心の教育」

国際政治学者、国連難民高等弁務官、JICA理事長として、世界の難 民支援や人間の安全保障などに大きく貢献された緒方貞子さん。生き方 や信念の基には家庭環境、研究活動など様々な要因があったと考えられ ますが、その一つには母校である聖心の教育があり、大きな影響を与え たのが初代学長マザー・ブリットでした。本展示では緒方貞子さんの数々 の貢献と生き方について、聖心の教育との結びつきを中心に紹介いたし ます。また、JASH 日本聖心同窓会のご協力により当時の様子を伝える 写真や学用品、JICA や緒方家のご協力を得て貴重な品々も展示します。 本展示を通して、緒方さんが示された地球規模課題への関わり方や共生 について、多くの方々と共に考え、一人ひとりの行動に繋がることを願 っています。



ルワンダ難民の子どもたちに囲まれて

期間

2021年

5/13 thu.



4/28 fri.

開催場所

4号館/

聖心グローバルプラザ 1階

BE * hive

国際シンポジウム「緒方貞子さんの思いを 受け継ぐ一アフリカと日本を結んで一」を 6月19日(土) <予定>オンラインで開催い たします。詳しくは研究所ホームページを御 覧ください。なお、本展示およびシンポジウ ムは一般社団法人東京倶楽部の助成を受けて 開催いたします。

https://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/

学生の活躍

環境省& TABETE "No-Foodloss!"Youth Action Project で 課外活動団体「Earth in Mind」がオーディエンス賞を受賞

学食のフードロスゼロを目指す取り組み

今回の「環境省 &TABETE "No-Foodloss!"Youth Action Projec」は、食品 ロスの削減を目指す学生の活動を推進する目的で行われたもので、本学学生 団体「Earth in Mind」は参加にあたり、学生食堂のフードロスゼロを目指 す「たべてこ:-) ~全部食べてエコ活してこ~」というプロジェクトに取り 組みました。学食職員へのインタビュー、学食利用者へのアンケート、ごみ 調査などを通してフードロス削減のための効果的な施策を考案。食べ残しを 防ぐための注文方法の変更や、サンプル廃棄をゼロにするためのモニター表 示の導入を実施しました。PDCA サイクルを回しながら学食利用者の具体 的な行動変容にまで取り組んだことなどが評価され、環境省での最終報告会 にて、参加者による投票を経て参加団体で唯一オーディエンス賞を受賞しま した。









3月

※Earth in Mind サステナビリティについて考え、自分たちにできることに取り組む活動を学内外で続けている。

(8)第224号